

第1回十日町市学区適正化検討委員会会議録

開催日：平成30年7月3日（火）午後7時～

会 場：川西庁舎（第1研修室）

出席委員

全員

欠席委員

なし

事務局出席者

蔵品教育長、樋口子育て教育部長、長谷川教育総務課長、山岸学校教育課長、
山本指導管理主事、市川教育総務課長補佐、（受付）星名教育総務課庶務係主査

開会 午後7時

1 開会あいさつ 蔵品教育長

全国的に人口減少であり、十日町市でも子どもの数が少なくなり学校の小規模化が進むと共に複式学級を余儀なくされる小学校が増えている。10年前に学校の適正規模と学校の統合の提言をいただき、その中には小中一貫教育についても入っていた。これまでに、地域の皆様のご理解を得ながら学校統合や小中一貫教育を推進してまいったが、今後10年間を視野に望ましい小・中学校の在り方をご議論いただきたい。

2 委嘱状交付

3 自己紹介 委員16人、事務局6人

4 正副委員長の選出

事務局により候補者を提案し、承認される。

- ・委員長 高橋 敏昭
- ・副委員長 古澤 布美子

5 正副委員長あいさつ

委員長・昨年倉俣小学校の統合に携わり、子どもの様子を心配しておったが、スクールバスの乗り場で子どもたちに聞いてみると、友達が大勢できてすごく楽しいという答えが返ってきたので、間違いではなかったと感じている。それぞれの立場で貴重な意見をしっかり聞いて良い答申ができればと思う。ご協力をよろしくお願いする。

副委員長・十日町市に嫁いで来て、今までは子どもの学校区域のことしか関心を持たずにきたが、PTA会長を務めてから十日町市内全体を勉強させていただいている。微力であるががんばりたい。

6 十日町市立小・中学校の望ましい学区について（諮問）

高橋委員長が蔵品教育長から諮問を受ける。

7 議 事

(1) 十日町市学区適正化検討委員会要綱について

- ・事務局により説明
(質疑なし)

(2) 第1次「十日町市における望ましい小・中学校の在り方に関する方針」について

- ・事務局により説明
(質疑なし)

(3) 委員会の開催日・審議の進め方について

- ・事務局により説明

委員

- ・9月の第3回会議以降の日程を早めに知らせて欲しい。

課長

- ・市議会や大地の芸術祭などの行事があるため、9月は最終週を考えている。
次回に12月までの予定をお聞きできれば早めに設定したい。

(4) その他

- ・平成30年度十日町市立小・中学校学級編成について

新潟県公立小・中学校学級編成基準・教職員配当基準

児童生徒数及び学級数推計表（平成30年度～平成36年度）

- ・事務局により説明
(質疑なし)

- ・学校視察について（ご案内）

- ・事務局により説明

- ・その他

委員

- ・小規模校で教員を増やして欲しいという署名などもしているが、教員を増やす動きはあるのか。

課長

- ・学校でもマンパワーが欲しいところだが、給与が新潟県から出ていることから難しい。

委員

- ・飛渡第一小学校には養護教員がいないという話だが、もし急病等の場合に教職員が対応できるのか。

課長

- ・特別な資格を有する者が行うような手当ではできない。一般的な手当であるいは病院へ連れて行くなどの対応になる。

委員

- ・飛渡第一小の校長は、養護教員がいないことが一番つらいと話していた。今は、

小学校1年生と3年生が複式学級で、教員が大変苦勞していると聞いている。

委員

- ・十日町市としては、学校統合に地域の方が反対すれば絶対に統合しないのか。

教育長

- ・今までは、地域の皆さんから統合の要望書を提出いただいて統合を進めてきたという経過がある。無理にではなく、地域全体の合意として進めてきた。

委員

- ・地域の方全員ということか。保護者の意見も含むのか。

教育長

- ・保護者の方や地域の自治組織の方など、地域で話し合った結果で要望書を提出いただくということである。全員が賛成に至らない事もあると思う。

委員

- ・飛渡第一小学校区に住んでいて中条小学校に通っている方がいる。はっきりと聞いてはいないが、放課後児童クラブが飛渡第一小に無いために、放課後家に誰も居ないことから、自分で送り迎えしてでも中条小に通わせている。

今飛渡地区で4歳児のいる方が、小学校へ通うようになって子どもが帰る時間に誰も家に居ないのは困ると言われ、放課後児童クラブが無いと困ると言っていた。それなら中条小学校へ通えばいいと教えたが、その選択肢があることを知らなかった。

父母は勤めており、祖父母もまだ勤めている家庭は、保育園でも保育時間が長くなる。

これから子どもの数が増える傾向にあるようなので、飛渡第一小に放課後児童クラブができれば、そんな心配がなくなると思う。

飛渡第二小が中条小に統合したときはどうだったのか。

委員

- ・地域の中で賛成と反対が出るのは当たり前のことでまとまりがつかなかった。そこで、在校生の親御さんとこれから就学する子どもの親御さんに話し合ってもらい、地域としてはその意見に従うこととなった。飛渡第一小に通うにもスクールバスになる。結果として中条小に統合して良かったと思う。

これから小学校就学の保護者には、できれば中条小に行きたいという思いの方もいる。地域の意見に従うとなると飛渡第一小学校区には統合に反対意見がある。

親御さんの意見が、もしかしたら無にされる可能性もあるかも知れない。

前回統合の話が出たとき、就学児保護者の大多数は中条小学校に統合すると思っていたが、地域と教育委員会の話し合いで統合が無くなったという人があった。

子どもたちのことを考えて、どうしたらいいかという結論を出すべきだと思う。

委員長

- ・倉俣小が田沢小に統合したが、第1次の方針が出てすぐ平成22年に話が出て、保護者は平成25年に統合するものと思っていた。地域で話し合って要望書を提出するよう言われたが、話がまとまらない。平成26年、28年に教育委員会から話があり30年に統合になった。最終的には、就学児保護者の意見と未就学児保護者の意見をまとめ、保護者の方針としてこうしたいがどうですかと地域の全世帯に意見を求めたが、ほとんど意見は無かったため、要望書を提出した。

もちろん反対の方もいたが、保護者の意見を尊重させていただく形にしたという経過がある。

委員

- ・教育委員会が考え方を示しても良いのではないかと思うが、市の考え方はどうか。

教育長

- ・学校統合については、強行に反対される方も居るので、できるだけ円満に進めたいと考えている。委員から話のあった学区を越えての通学について、担当から説明したいと思う。

課長

- ・市ホームページで公開しているものだが、家庭に関する理由、住居に関する理由、身体的理由、地理的理由、その他の理由がある。例えば家庭に関する理由では、保護者の家庭が全て居宅外就労、つまり子どもが家に帰っても誰も居ない。住居に関する理由は、引っ越したが学年末まで数ヶ月しかないので学校を変わらないで通わせて欲しいといった場合がある。地理的に何か理由があり学区外就学にあたると認められる場合、その他の理由に、いじめや不登校があり、仕切り直しをするために学校を変わった方が良いような場合などがある。そういった理由で申請があると許可する形で実施している。

教育長

- ・次回の会議に資料をお渡しするようにしたい。

委員

- ・就学児保護者と未就学保護者の意見と地域の意見が真逆になって、最終的に地域の意見が採用されたという場合、教育委員会ではどちらかの意見を採用するのではなく、地域での話し合いの結果のみを採用する形なのか。

教育長

- ・教育委員会が中に入って仲裁することは無い。基本的には、小学校のPTA会長とか地域自治組織の代表の方などの連名で要望書をいただいているのが実態である。

委員

- ・あくまで教育委員会は、保護者や地域の方々に対して、仲裁案などは全く無いのか。

教育長

- ・相談には乗るが、教育委員会が間に入って白黒つけるのは適切ではない。

委員

- ・理解はするが、保護者の意見と違う結果になってしまうというのは、本末転倒のような気がするので、保護者の意見が尊重されるような仕組みをこの場で作ることはできるのか。

教育長

- ・この学区適正化検討委員会の中で色々な議論があって、そのことについて公表もできると思うので皆様のご検討をお願いします。

委員

- ・私は上野小学校だが、橘小学校と統合という方針が全く進んでいない。どちらに

統合するかで割れていて、現在は橘小の児童数が少ないがこの後逆転することもあり、橘小関係者が話しに乗らないスタンスのようだ。保護者の意見も分かれているが、保育園は上野に来ているのでそのまま小学校へ就学するのが良いという意見と保育園が上野だから小学校は橘で良いという意見もあり話が進んでいない。今後意見をまとめるのは大変だと思う。教育委員会からガイドラインや方向性を示して欲しい。また、意見が完全に食い違って話が進まなくなったときに、一歩踏み出すためのアイデアがあればと思っている。

教育長

- ・また個別にご相談を受けたいと思う。

委員長

- ・その他にご意見が無い様なので議事は終了する。

8 閉 会

副委員長あいさつ

- ・皆さんの活発な意見交換が必要になると思う。今後ともよろしく願います。

午後 8 時 30 分 終了